



学用品を前に笑顔の子どもたち（マニラ）



## 学校に戻ることができた、路上の子どもたち

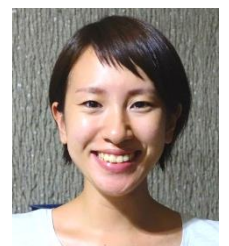
アイキャンがマニラ市で運営するドロップインセンターには、日々約 20 人の路上の子どもたちが通っています。その多くは、家族の生活を支えるために路上で仕事をしており、学校に通えていません。一旦入学しても、路上の仕事のために通えなくなり、長期間学校から離れているうちに、通う意欲を失った子どももいます。そこで、子どもたちが復学できるよう、ソーシャルワーカーらが中心となり、今年は特に「学習意欲の促進」と「家族の協力を得ること」に注力してきました。

まず、これまでもセンターで行ってきた識字教育にゲームなども混ぜながら、「学ぶ楽しさ」を実感してもらう工夫をしました。また、学校への復学を果たした元路上の子どもたちが、自身の経験を現在も路上にいる子どもたちに伝える「路上教育」も行ってきました。これらにより、「学校に行きたい気持ちが大きくなった（女の子/13 歳）」「話を聞いて、自分も変われると思った。両親に話したい（女の子/11 歳）」といった声が聴かれるようになりました。

また、センターに通う子どもの親のほとんどは、路上で生まれ育ち、教育を受けていません。そのため、家庭訪問を通して、路上ではなく適正な労働環境で働けるようになるには教育が欠かせないことなど、教育の重要性を親に伝えるとともに、子どもが学校へ通えるよう、家計における通学経費の捻出等についての話し合いを重ねてきました。こうして、各家庭から理解や協力を得られるようになり、「子どもを卒業させることを家族の目標にしたい」という声も上がるようになりました。

こうして、フィリピンの新学期が始まる 6 月、9 人が復学できました。現在は、その子どもたちが通学を継続できるよう、ソーシャルワーカーが面談を通して悩み等を把握しています。学用品が足りず通学を続けることが難しいという声を受け、8 月はそれらの提供を行いました。まだ通っていない他の子どもたちも、生き活きと学校に通う子どもたちの姿や話に刺激を受け、復学を希望するようになっています。

今回復学した子どもたちは、依然として、週末や放課後、学校がない時間に路上の仕事が続いています。復学した子どもたちが通学を継続できるよう、そして子どもが働かなくていいように、今後も活動を続け、また、現在学校に通えていない子どもたちに関しても、復学のための準備を進めていきます。



ICAN マニラ事務所  
羽根友里絵（はねゆりえ）  
～プロフィール～  
津田塾大学英文科卒業。  
東京、香港、台湾で企業  
PR / CSR のコンサルタントとして大手広報代  
理店で勤務。2016 年 1 月  
に入職、3 月より現職。

## Project Site



●はアイキャン事業地  
番号は裏面に対応

認定 NPO 法人アイキャン

〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須 3-5-4 矢場町パークビル 9 階 TEL/FAX : 052-253-7299 メール: info@ican.or.jp

ホームページ <http://www.ican.or.jp> フェイスブック <https://www.facebook.com/ICAN.NGO>

# Close up

## I. 危機的状況にある子どもたちと「ともに」行う活動

全6事業の中から、今回はこちらの2つをご紹介します。

### ①ミンダナオ紛争の影響を受けた子どもたち 8月11-25日/ピキット

#### 地域の皆で作った、平和のための開発計画



ピキット町の24村の村役員、国軍、MILF等に対し、「平和構築のための開発計画」というテーマで研修を4回実施し、90名が参加しました。平和の概念や平和活動を取り入れた開発計画が計24作成され、参加した村役員(59歳)は、「村役員だけでなく、住民や国軍、MILFが話し合っ、この開発計画を作成した意義は大きい。それぞれが実践することで、地域の平和は達成できる」と語りました。

### ②イエメン紛争の影響を受けた子どもたち 8月9日/オボック(ジブチ)

#### 難民の若者ボランティアによる話し合い



難民キャンプで「子どもの広場(CFS)」の運営を担う4名のボランティアに対する研修を行い、CFSボランティアとしての行動規範の確認や、これまでの活動内容の振り返りと改善策の考案、新たな活動の実践について話し合いました。アブドゥラフマンさん(26歳)は、「今回話し合ったことを、話ただけで終わらせるのではなく、実際に行動に移していくことが重要だと思う」と語りました。

## II. できること(ICAN)を増やす活動

全7事業の中から、今回はこちらの2つをご紹介します。

### スタディツアー・海外研修事業 8月23~27日/マニラ

#### 元路上の若者たちからの学び

スタディツアーに今夏計22名が参加しました。ツアー3日目、カリエカフェで働く元路上の若者を訪問した参加者からは、「『カリエで働き始めてから、自分も社会の一員であると感じられるようになった』という言葉が印象的だった」「これまで世界の悲しいニュースを見ても、かわいそうと思うだけだったが、これからは、その背景にある家族などのことも考えていきたい」などの感想がありました。



### MY アイキャン事業 8月9日/愛知

#### 学校内で集めたハガキ

愛知県の金城学院中学校の生徒3名と先生が、校内で集めた書き損じハガキと未使用の文具を日本事務局に届けてくださいました。「他にも集めることができる物があれば、学校で紹介したいので教えてください」と言っていたが、古本・CD等の回収活動をご紹介します。  
\*書き損じはがきや古本等は、年中募集しています。  
詳細はホームページをご覧ください。 <http://www.ican.or.jp>



## 今月のTopic



### 奨学生が来年卒業へ

8月13日/ジェネラルサントス(フィリピン)

5名の奨学生が年次集会に参加し、学業の進捗等を共有しました。全員が来年卒業予定であることを確認し、エレインさんは「小学1年から奨学金を頂き、来年大学を卒業できるので、喜び、達成感、パートナーの方への感謝の気持ちでいっぱいです。将来は、困難な状況の地域に貢献したいです。」と話しました。

## 今月のMedia

8月8日 中日新聞 「みの池田町国際親善を進める会」主催フィリピン・マニラのストリートチルドレンの写真展について

## 今月のICAN 名人

◎小板橋さん、長年応援してくださり、ありがとうございます！

### マンスリーパートナー 小板橋秀行さん

#### 『共に生きる』ことを大切に

インタビュー:9月19日

以前私が務めていた金城学院中学では、「総合的学習」の時間を、「共に生きる」をテーマに、生徒個人が学び、実行する原点を作る時間にしていました。そんな時、アイキャンと出会い、第1回目の「トゥライ・プロジェクト」(フィリピンの子どもの絵手紙交流)や、フィリピンへの「子ども使節団」の派遣などに参加しました。

私自身が、他者と「共に生きる」きっかけを作られたのは、高校生の時に、岩村昇というクリスチャンの医師がネパールで医療活動をしていることを知ったことからでした。「何かしたい」と思ったのです。その後、他団体のスタディツアーに参加してから、フィリピンが大好きになってしまいました。80年代後半のフィリピンは、私の少年時代とよく様子が似ていて、とても親しみ深いものでした。しかし、そこで、いかに日本の経済的繁栄が、途上国の犠牲の上に成り立っているかを肌で感じたのです。それから今に至り、現地で活動はできなくても、せめて賛助金を、と思い、マンスリーパートナーになりました。路上の子どもたちが、空腹を紛らすために、Tシャツに隠したシンナーを吸っている現実を見た時にはショックでしたが、その現実に向かうかのようにNGOが彼らを更生させようとしており、そこにアイキャンも関わりを持っていることを知ったためです。

今、「牧師見習い」という身分の生活の中で、「共に生きる」ことを発見しながら生活したいと思っています。フィリピンの子どもたちには、教育を受けてほしい、教育を受けることが、将来の自分の地域や国のためになることを知ってほしいと思います。

【編集者から一言】毎月1,000円からのご寄付通して応援して下さるマンスリーパートナーを募集しています！詳しくはお問合せください。